

第4日（9月21日）

1 村田正春議員（質問方式 一問一答）

答弁を求めるもの 市長、教育長

1 小・中学校の先生方が笑顔になるための働き方改革について

22年度文科白書によると、社会問題化している教員の長時間勤務については「是正は待ったなしだ」と明記されている。働き方改革の遅れにより、意欲や能力を持つ人材が教育現場に集まらなくなっていくことは、学校教育の水準低下につながると懸念し、「子ども達にとっても、わが国や社会にとってもあってはならない」と危機感をあらわにしている。

そこで、本市の教職員の働き方改革について伺う。

(1) 本市の2022年度小学校・中学校教員の時間外勤務について

ア 一カ月の平均時間外勤務時数は、小学校と中学校でそれぞれ何時間か

イ 時間外勤務上限の月45時間を超える教諭は、小学校において何人で何%か、中学校においては何人で何%か

(2) 本年度の本市の小学校・中学校教員の会議を含む週あたりのコマ数について

ア 市内中規模程度の学校における、小学校教諭・中学校教諭の、会議を含む週当たりのコマ数は平均何コマで、多い教諭のコマ数は何コマか

イ 市教委として、週当たりのコマ数についてどのように考えるか

(3) 本年度の市内13小学校で教科担任制を導入している学校について

ア どの学年のどの教科で、教科担任制を導入している学校が多いのか

イ 教科担任制を導入したことによる成果と課題は

(4) 外部人材「スクール・サポート・スタッフ」について

ア 「スクール・サポート・スタッフ」がどこの学校にも配置されているのか

イ 「スクール・サポート・スタッフ」が配置されたことによる成果は

(5) 本市独自で、または各学校で行っている働き方改革について

本市独自で、または各学校で行っている働き方改革の事例があったら教えていただきたい

2 ひとり暮らし高齢者の生きがいづくりについて

令和5年度高齢者福祉行政の基礎調査によると焼津市の総人口136,623人に対し、65歳以上人口は41,144人。高齢化率は、30.1%。高齢者世帯28,328世帯の内訳を見ると、一番多いのは子らとの同居で11,295世帯、2番目に多いのが高齢者のひとり暮らしで9,580世帯、3番目が高齢者夫婦のみで6,875世帯である。

鎌田實氏は著書「ちょうどいい孤独」の中で、「孤独感は死亡率を26%高め、社会的孤立は29%高め、ひとり暮らしの場合は32%高まる」と書いている。

そんなひとり暮らしの高齢者が、健康を維持し、生きがいを持った人生を送れるようにする取組について伺う。

(1) 本市における高齢者ひとり暮らし世帯数の推移について

ア 今までどのように推移してきた、これからどのように推移すると予想できるか

イ そこには、どのような課題がみられるか

(2) ひとり暮らし高齢者が参加できる「通いの場」について

ア どのような「通いの場」があるのか。また、それぞれの運営形態はどうか

イ それぞれ市内にいくつあり、それぞれ主にどのような活動をされているのか

ウ 「通いの場」の課題は

(3) 高齢者ひとり暮らし世帯の見守りにについて

ア どのような見守り方法があるのか

イ その課題は

(4) ひとり暮らし高齢者が最期まで自宅で暮らしていくための施策について

ひとり暮らし高齢者が最期まで自宅で暮らしていただけるために、どのような施策が考えられるか